

大津企業景況調査報告書

(第53回)

平成23年 4月～ 6月期 実績

平成23年 7月～ 9月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成23年4月～6月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
建設業	20社	18社	90.0%
製造業	10社	10社	100.0%
卸売業	10社	7社	70.0%
小売業	30社	25社	83.3%
サービス業	30社	26社	86.6%
合計	100社	86社	86.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成23年4月～6月とし、調査時点は平成23年6月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感は大震災の影響から悪化

平成 23 年 4 月～6 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

前回 3 月の調査では東日本大震災の発生まで調査票を回収しており、今回が大震災発生後初めての調査となる。景況感、前四半期も悪化していたが今四半期はさらに悪化した。これは、大震災の影響により資材の調達難から生産活動が停滞していることや、自粛ムードで消費が冷え込んでいることが原因とみられる。業種別では、卸売業・小売業は前四半期に比べてやや改善したが、製造業、サービス業は大幅に悪化した。

先行き見通しは、大震災から 6 ヶ月経過するので消費者心理の改善からサービス業をはじめ業況はやや改善すると見込んでいるが、電力不足による節電要請が生産回復等に影を落としており、先行き不透明感がなお強い。

□ 業況判断 DI（前年同期比）は製造業・サービス業が悪化

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期は悪化して▲33 となっていたが、今四半期はさらに悪化して▲35 となった。特に製造業は原材料・部品などの調達難から生産活動が停滞していること、サービス業は自粛ムードで宿泊などが落ち込んだことから大幅に悪化したとみられる。

□ 売上 DI（前年同期比）は製造業・サービス業が悪化

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、前四半期の▲33 から今四半期▲34 と減少が続いている。業種別にみると、卸売業・小売業は前四半期に比べてやや改善したが、製造業、サービス業が大幅に悪化した。

□ 採算 DI（前年同期比）は大幅悪化

「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲33 から今期▲50 と大幅に悪化した。業種別にみると、製造業、サービス業に加え卸売業も大幅に悪化した。

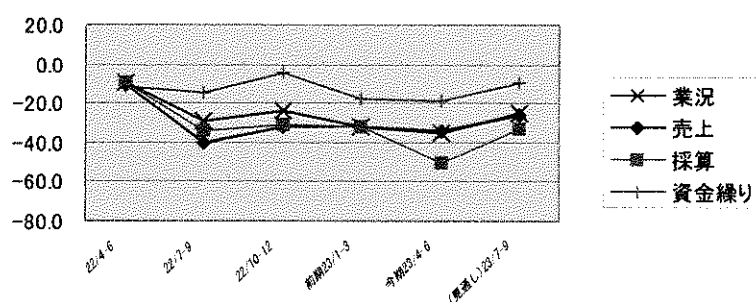
□ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）はやや悪化

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲18 から今四半期▲19 とやや悪化した。業種別にみると、卸売業で好転したが、製造業、サービス業が悪化した。

□ 従業員 DI（前年同期比）はやや過剰気味

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の±0 が今期▲5 とやや過剰となった。業種別にみると、製造業と卸売業で過剰感が強まった。

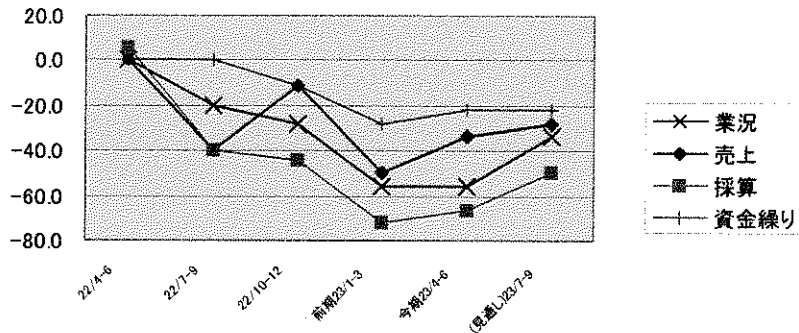
主要4項目DI指数推移グラフ(全体)



建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲56 から今四半期も横ばいである。「売上」は前四半期の▲50 から今四半期▲33 と改善したが、「取引の問合せ」は前期の▲44 から今四半期▲61 と悪化した。過当競争・安値受注から「採算水準」も前四半期の▲17 から今四半期▲28 と悪化した。「従業員」は前四半期の▲22 から今四半期▲17 と過剰感が和らぎ、「資金繰り」は前四半期の▲28 から今四半期は▲22 とやや改善している。

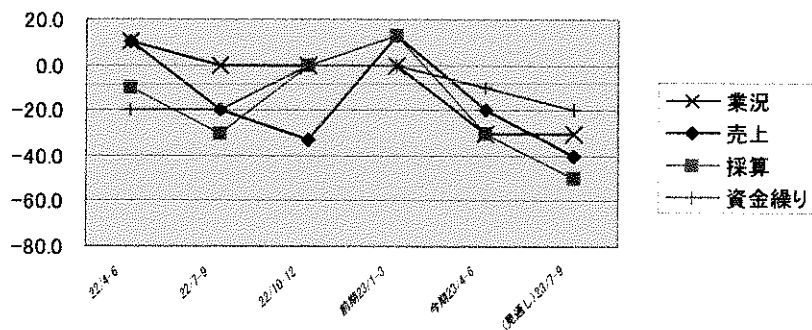
主要4項目DI指数推移グラフ(建設業)



製造業

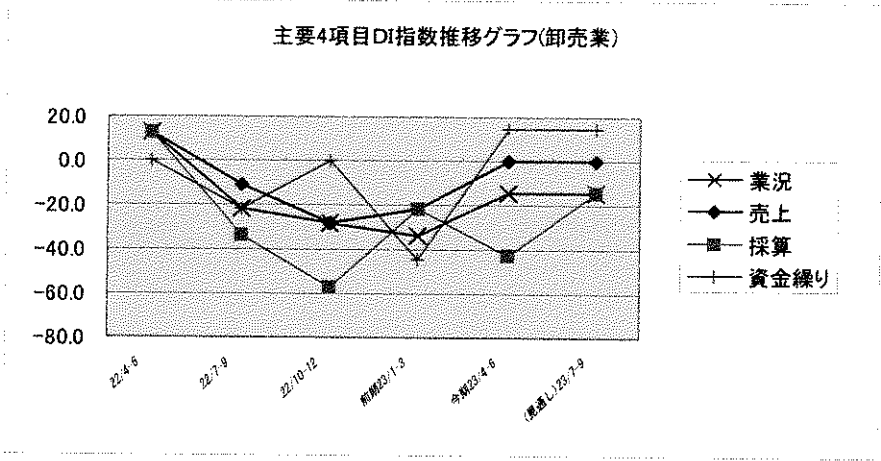
DI 指数をみると、「業況」は前四半期まで±0 と足踏み状態であったが、今四半期は▲30 まで一気に悪化した。大震災による資材調達難等によるものとみられる。「売上」は前四半期の+13 から今四半期▲20 に大幅減少し、「採算」も前四半期の+13 から今四半期▲30 と悪化した。「取引の問い合わせ」は前四半期の▲38 から今四半期も▲30 と低調で、「従業員」は前四半期の▲13 から今四半期▲20 と過剰感が増している。

主要4項目DI指数推移グラフ(製造業)



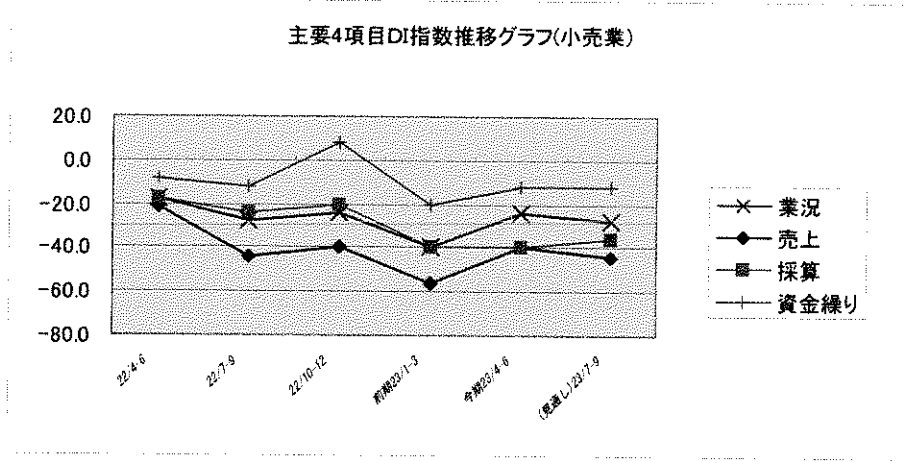
卸売業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲33から今四半期は▲14と改善した。これは「売上」が前四半期の▲22から今四半期±0と改善したことに加え、「採算水準」が前四半期の▲44（赤字）から今四半期+14（黒字）と大幅改善したためとみられる。「資金繰り」も前四半期の▲44から今四半期+14と好転した。



小売業

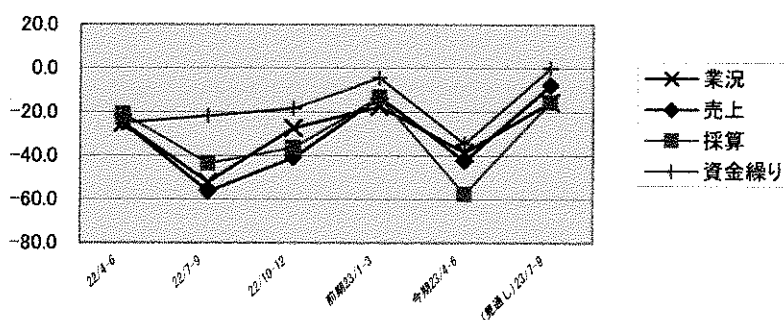
DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲40から今四半期は▲24と改善した。「売上」は前四半期の▲56から今四半期▲40と改善し、「採算水準」も前四半期の▲40から今四半期▲4と改善し、「取引の問合せ」も前四半期の▲40から今四半期▲32と改善している。「資金繰り」も前四半期の▲20から今四半期▲12と改善していることによるものとみられる。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲17 から今四半期は▲39 に大幅悪化した。これは、自粛ムードで宿泊などが落ち込んだためとみられる。「売上」は前四半期の▲13 から今四半期▲42 と悪化し、「採算」も前四半期の▲13 から今四半期▲58 と大幅悪化した。「取引の問合せ」も前四半期の▲26 から今四半期▲42 と悪化した。「資金繰り」も前四半期の▲4 から今四半期▲35 と大幅悪化した。「従業員」は前四半期+4 から今四半期も横ばいでやや不足気味で推移している。

主要4項目DI指数推移グラフ(サービス業)



3 ヶ月後の見通しについて全体の「業況」は、悪化した今四半期の▲35 から▲24 とやや改善する見通しをしている。「売上」は8ポイント改善して▲26、「採算」は17ポイント改善して▲33の見通しである。業種別に業況見通し判断をみると、大震災から6ヵ月経過するので消費者心理の改善を見込むサービス業やソーラーパネル設置等の新エネルギー分野に明るい見通しもある建設業では、大幅改善を見込んでいるが、電力供給不足による節電要請が生産活動に支障を来す懸念がある製造業等では慎重な見方をしており、先行き不透明感がなお強い。

3 ヶ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前四半期の21%から6ポイント減少して15%となった。卸売業が前四半期の0%から今四半期29%に大幅増加し、製造業が25%から30%に増加し、建設業が11%から17%に増加した半面、小売業が24%から12%に減少し、サービス業が30%から8%に大幅減少した。投資企業の投資内容の割合は更新投資と合理化・省力化投資がともに31%で最も多く、生産力増加投資が13%であった。投資方針は、「今後の景気にかかわらず計画通り投資を行う」とする企業が前四半期47%から今四半期53%とやや増加した。景気の先行き不透明感が高い中で投資方針をあまり変更しないのは、更新投資が多いことと、合理化・省力化投資を行ってコストダウンによる競争力強化を志向しているためとみられる。

(MBA・中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は8社であった。

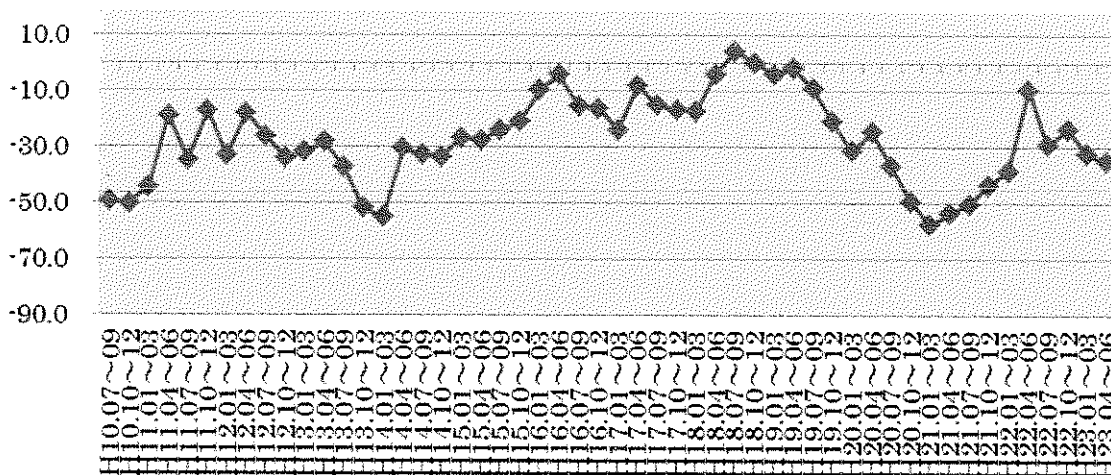
- ・3・11以後、3・14～お水の支援活動で、お金にはなりません但现在もこれからも続けなければならないので、製造数は増ですが、売上げにはあまりならず。
- ・コスト増になる消費者の過剰なニーズに対応していくのが大変。食の安全安心は大切だが、安心安全があたり前で、さらにというニーズ。日本全体が言うことは言うが、そのコストやリスクに対しての認識やバランスがわかっていない、いびつな状況を少し感じます。
- ・子供手当など出さずに、学費や昼食費を無料にしている方がよい
- ・ソーラパネル事業の政府における政策で、屋根工事業界での未来は明るい。大津に限っては、市役所産業政策課による住宅等改修助成事業での成果が出ている。今後とも、予算、期間の拡大を願い、商工会ともども、PRに力を入れていただきたい。
- ・1. 設計価格と実勢価格との格差が大きく収益に影響が出ているので、改正を望む。2. 材料仕入に日数を要する為、予定工期が遅れることが多く問題となる、早期の解消を望む。
- ・東日本大震災の影響が今後どのような形で出てくるのか、極めて不透明である。このような時こそ、強いリーダーシップを政治に期待するのですが。
- ・早くこの閉塞感から開放されて、活気のある社会になってほしいと願っています。
- ・東日本大震災の影響、電力供給の削減、消費の抑制等、滋賀県内に及ぼす影響の程度、期間（S24・25）はどのくらい続くのか不安である。

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し
全 体	▲ 34.9	▲ 24.4	▲ 33.7	▲ 25.6	▲ 50.0	▲ 32.6
建 設 業	▲ 55.6	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 27.8	▲ 66.7	▲ 50.0
製 造 業	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 50.0
卸 売 業	▲ 14.3	▲ 14.3	0.0	0.0	▲ 42.9	▲ 14.3
小 売 業	▲ 24.0	▲ 28.0	▲ 40.0	▲ 44.0	▲ 40.0	▲ 36.0
サービス業	▲ 38.5	▲ 15.4	▲ 42.3	▲ 7.7	▲ 57.7	▲ 15.4
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し
全 体	▲ 14.0	▲ 8.1	▲ 41.9	▲ 33.7	▲ 4.7	▲ 2.3
建 設 業	▲ 27.8	▲ 22.2	▲ 61.1	▲ 61.1	▲ 16.7	▲ 5.6
製 造 業	20.0	10.0	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 20.0
卸 売 業	14.3	▲ 14.3	▲ 42.9	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 14.3
小 売 業	▲ 4.0	▲ 4.0	▲ 32.0	▲ 24.0	4.0	4.0
サービス業	▲ 34.6	▲ 7.7	▲ 42.3	▲ 38.5	3.8	3.8
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し
全体	▲ 18.6	▲ 9.3	▲ 5.8	▲ 9.3	1.2	▲ 4.7
建設業	▲ 22.2	▲ 22.2	0.0	▲ 5.6	5.6	▲ 5.6
製造業	▲ 10.0	▲ 20.0	10.0	0.0	10.0	0.0
卸売業	14.3	14.3	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 14.3
小売業	▲ 12.0	▲ 12.0	▲ 4.0	▲ 8.0	12.0	4.0
サービス業	▲ 34.6	0.0	▲ 15.4	▲ 15.4	▲ 11.5	▲ 11.5
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（H10.4～6期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>